ISSN 2758-3171

南予生物研究会 -since 1984-

高知県宗呂川で採集されたイガカノコ

山川宇宙¹·森口宏明²·山下龍之丞³·清水孝昭⁴

- ¹ 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻 2株式会社環境アセスメントセンター
- 3東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻
- 4愛媛県農林水産研究所水産研究センター



写真1 *Clithon corona* (Linnaeus, 1758) イガカノコ(TKPM-MO 7312)

種の記録

Neritidae アマオブネガイ科 *Clithon corona* (Linnaeus, 1758) イガカノコ(写真 1)

標本 徳島県立博物館軟体動物標本(TKPM-MO) 7312,1個体(チチブモドキ Eleotris acanthopoma Bleeker,1853 が吐き出した貝殻), 殻幅 10.7mm, 殻高11.0mm,2025年9月19日,山川宇宙採集.7313,1個体(生貝), 殻幅 10.4mm, 殻高12.2mm,同月21日,山川宇宙・森口宏明採集.採集地はいずれも宗呂川(高知県土佐清水市下川口).

種の特徴

上記 2 標本は、 競表にやや粗い成長脈を有し、光沢をもたない. 殻頂部の浸食は浅い. 肩部の角は明瞭で、 それぞれ 4 本(7312)、1 本(7313)の棘をもつ. 内唇上部に突出した歯状突起がある. 以上の形態学的特徴が、 黒住(2003) および増田・内山(2004) のイガカノコの特徴と一致したため、 本種に同定された.

備考

本種は、国内では小笠原諸島、静岡県、和歌山県、高知県(四万十川)、宮崎県、鹿児島県、琉球列島から記録されている(中島、1996;増田・内山、2004;小山、2008;三浦・実政、2010;早瀬ほか、2013;片野田ほか、2014;佐々木ほか、2015;和田ほか、2024;国土交通省、2025)、国土交通省(2025)による四万十川

の記録については、標本の有無は不明であり、本稿 は四国における本種の標本に基づく初記録となる.

引用文献

- 早瀬善正・景山良祐・木村昭一. 2013. 庵原川河口域(静岡市)の貝類相一特に北進分布記録を含むアマオブネ型類 5 種についてー. かきつばた, (38):23-32.
- 片野田裕亮・中島貴幸・市川志野・冨山清升. 2014. 大隅 諸島における汽水および淡水産貝類相. Nature of Kagoshima, 40:189-215.
- 国土交通省. 2025. 河川環境データベース 河川水辺の国 勢調査(https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/, 2025 年 11 月 13 日参照).
- 小山安生. 2008. 和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録 アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキ スズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科. 南紀生 物, 50(1):91–95.
- 黒住耐二. 2003. 13 章 軟体動物. 西田 睦・鹿谷法一・諸 喜田茂充(編), 琉球列島の陸水生物. 東海大学出版 会, 秦野. 167-180.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水 域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京. 240pp.
- 三浦知之・実政武志. 2010. 宮崎県一ツ瀬川河口域に出現する貝類と甲殻類. 宮崎大学農学部研究報告, 56:29-44
- 中島耕作. 1996. 指宿市の河川等に生息する淡水産の貝類. 九州の貝, (46):11-13.
- 佐々木哲朗・立川浩之・向 哲嗣・栗原達郎. 2015. 小笠原諸島兄島および父島の軟体動物相の現況. Ogasawara Research, (41):41-73.
- 和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之・金谷弦・三浦誠矢. 2024. ゆかし潟(和歌山県那智勝浦町)における軟体動物・十脚甲殻類の記録(2020~2023 年). 和歌山県立自然博物館館報,(42):47-59.

(2025年11月20日受付, 2025年11月21日公開)

連絡先: 山川宇宙 (e-mail: uchukawaanago@gmail.com) (Uchu Yamakawa, Hiroaki Moriguchi, Ryunosuke Yamashita and Takaaki Shimizu. 2025. *Clithon corona* (Neritidae) collected from the Souro River, Kochi Prefecture. NS Fieldnote, 25035)